

世田谷村日記

石山修武

九月二四日

十時大学建築学科会議。ここのところ連日の会議。午後雑用。十六時内閣府にて沖繩の件。名護市名桜大学理事長比嘉鉄也氏等と会談。計画を前に進める。十八時過世田谷へ。

九月二五日

生活雑貨を進める手段を考えよう。九時地下でスタッフと無駄話し。無駄話しが無駄のママではとも思わぬでもないが、無駄はある種の油であると言う俗論もあるからね。午前世田谷午後大学夜世田谷という一日を三分割して暮らすという考えは軌道に乗ってきたようだ。しかし、これは疲れる。十四時大学。一日の何時間を移動に費やしているか、移動している時間の使い方をどうにかしなくては。そんなに時間がたつぷり残されているわけではない。

十五時半雑用を終えて三年生の特別講義。まだ正式には秋授業は始まっていないが、へソ曲がりであった八名の学生の為にレクチャーと設計指導を行う。我ながら熱心であった。十七時十五分修了。ポカリと時間があいたので読書。十八時半千駄ヶ谷で原口古川両氏と会食。二時半世田谷に戻る。原口氏より住宅の相談を受ける。

九月二六日

六時起床。屋上菜園にサンマの頭など埋める。このところいま北の海で漁にいそしんでいるハンマや鳴子の吉田さんからたて続けにサンマが送られてきたので連日サンマを食べていた。それでサンマの頭をゴツソリ埋めることになった。先日種まきしたスイートピーの芽が沢山生え出していた。今年咲いたスイートピーの種を今日まいた。九時地下打ち合わせ。十一時大学人事小委員会。大事な会議であった。十三時教室会議。十五時修了。教授会は欠席する。丹羽君の自転車のプロジェクト進んでいる。

memo十一月号をパラパラと繰っていたら、鈴木さんの連載「場所に聞く」世界の中の記憶を見つけた。ワイマールのジェニウス・ロキを書いている。

九月二七日

夕方気仙沼高橋工業社長来世田谷。巨大遊具その他の打ち合わせ。彼はそのまま世田谷泊り。

九月二八日

午後大学。中里和人氏と新連載の企画を相談。一週間以内に企画を持ち寄ろうという事になった。十五時設計製図講評会。十九時三〇分修了。

九月二九日 日曜日

十時星の子愛児園巨大遊具位置出し。中沢先生立ち会い。変更部分高橋工業へFAX。十二時半修了。明日の全体会議の指示は、具体的な指示をそれぞれのプロジェクト毎にせずばなるまい。夜原口氏来宅。再び住宅の相談を受ける。

九月三〇日

九時世田谷地下ミーティング。というよりも各自に指示出し。

藤森照信の労作「丹下健三」昨日読了。丹下が偉大であるのは確然としているが、大分前から私は別の径を採択しているので、揺らぎはない。藤森もインタビュ―その他長い間丹下さんと付き合っ
つて、そのような事実に辿り着かざるを得なかったにちがいない。
大谷幸夫、磯崎新の川合健二に対するコメントが興味深かった。
大商人の資質のカケラを磯崎は川合に嗅ぎとっていたのが知れた。
実に川合は今風に言えば先端技術のプリコラージュに巧みであつ
たと同時に経済の事、技術のコストについても敏感であつた。そ
ういう人間は商才が自然に身に備わつてしまふのは宿命なのだ。
私には遂に商才が何故か備わらなかつたな。数字を本能的に嫌う
からだ。経済は数字の戯れをシステムとして把握する世界だから
な。

十三時大学中国の件打ち合わせ。Dr. 野村より提案あり。風水に
基づいたマスタープラン。磯崎の海市は良くできたプロジェクト
である。なんらかの形式で継続させる手段を考えている。